

I あなたが今までに関わった精神疾患患者で、患者の自己決定を促すアプローチを行った事例を想起し、下記の設問に答えなさい。

- 問1 患者の自己決定を促すアプローチとして、具体的にどのような関わりをしたのか、述べなさい。
- 問2 その患者に対して、なぜそのようなアプローチをしようと考えたのか、理由を述べなさい。
- 問3 患者の自己決定を促すアプローチを行うにあたって、家族や他の医療スタッフ、関係機関など、患者の周囲の人々との調整において重要なことは何か、あなたの考えを述べなさい。

【出題の意図】

精神看護において、患者の自己決定を促すアプローチは看護の中核的な支援である。よって、そのようなアプローチを実践する力を有しているか、および、自らの実践を論理的に説明できるかを問う問題である。

【解答のポイント】

問1については、本人の希望を聞くことや、選択肢を提示して選んでもらうこと、本人が決定できるまで待つことや、自ら選択できるような機会をつくることなどについて、具体的に記述されればよい。

問2については、問1で述べたアプローチを選択した理由について、患者の状態や看護師が患者に期待していた意図、今後予測される状況などから、論理的に記述されればよい。

問3については、リカバリーの考え方を基盤として、本人の希望する生活を目指すことを重視し、本人と家族がそれぞれの考えを伝えあう場をつくることや、家族の不安を軽減するような社会資源の活用を提案すること、多職種、他機関とも本人の希望することに向けて、協働体制を築いていくことなどが論理的に記述されればよい。

II 以下の用語から4つ選び、それぞれについて説明しなさい。

- ①防衛機制
- ②クライシス・プラン
- ③動機付け面接
- ④ストレンギスモデル
- ⑤アサーション
- ⑥アウトリーチ
- ⑦自立生活援助
- ⑧アカシジア

【出題の意図】

博士前期課程にて精神看護学を学ぶにあたり基礎的な知識を有していることを確認する。

【解答のポイント】

用語の定義や概念を正確にとらえ、文章で説明できること。